

隠居シニアからアクティブシニアへ

東京ガス都市生活研究所では、1990年から3年ごとに「生活定点観測調査」を実施しています。この中から、近年一貫して人口が増加しており、今後も増加が予想される「70代シニア※」に着目し、約20年間の変化を捉えました。「70代シニア」の暮らしの実態や意識がどのように変わってきたのかをご紹介します。

※ 70歳以上の男女を指します。

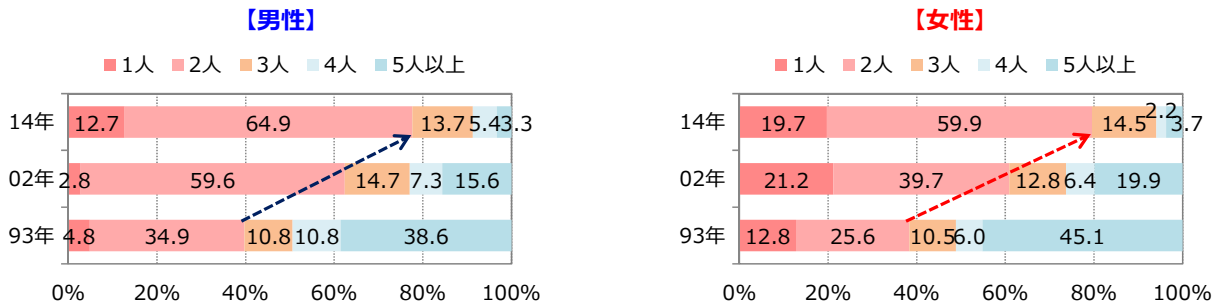
隠居シニアの消滅へ ～子供と同居しないシニアが増加～

都市生活研究所では、子世帯と同居し家事などを子世帯に任せていたかつてのシニアを「隠居シニア」と名付けました。今回の分析により、70代シニアでは子世帯との同居が減少し、家事を主に担当するなど子供に頼らず生活する人が増えていることがわかりました。隠居シニアは消滅する方向にあると言えます。

同居人数2人以下が増加し、5人以上が大きく減少

図1は、70代シニアの同居人数を示しています。2人以下が増加し、2014年には男女ともに8割近くに達しています。その一方で、5人以上が大きく減少しており、夫婦2人世帯や単身世帯が増加していることがわかります。

図1. 同居人数（自分を含む）＜70代以上＞



2世帯同居は大きく減少

2世帯同居をしている70代以上の割合は、1993年は53.9%でしたが、2014年は10.7%まで減少しています。子世帯と同居する70代シニアが減少していることがわかります。

図2. 2世帯同居の割合
(親世帯と子世帯と一緒に住んでいる)

